

2021年（令和3年）の世界の年平均気温¹（速報）

2021年の世界の年平均気温偏差（1991～2020年の30年平均値からの偏差²）は+0.22℃（1～11月の期間から算出した速報値）で、統計を開始した1891年以降で、6番目に高い値となる見込みです。また、最近8年（2014～2021年）は、すべて歴代8位以内となる見込みです（第1位は2016年の+0.35℃）。世界の年平均気温は、長期的には100年あたり0.73℃の割合で上昇しており、特に1990年代半ば以降、高温となる年が多くなっています（図1）。

2021年の地域別の気温では、ヨーロッパ南部及びアフリカ北部から中東、東アジアにかけて、北米中部などで高温となったほか、海域では北太平洋や大西洋を中心に広い範囲で高温となりました（図2）。また、2021年の月別では5～11月が歴代5位以内、季節別では夏と秋が歴代3位以内となりました。

近年、高温となる年が頻出している要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響が考えられます。また、エルニーニョ現象やラニーニャ現象などの数年程度から数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動の影響も受けて変動していると考えられます。

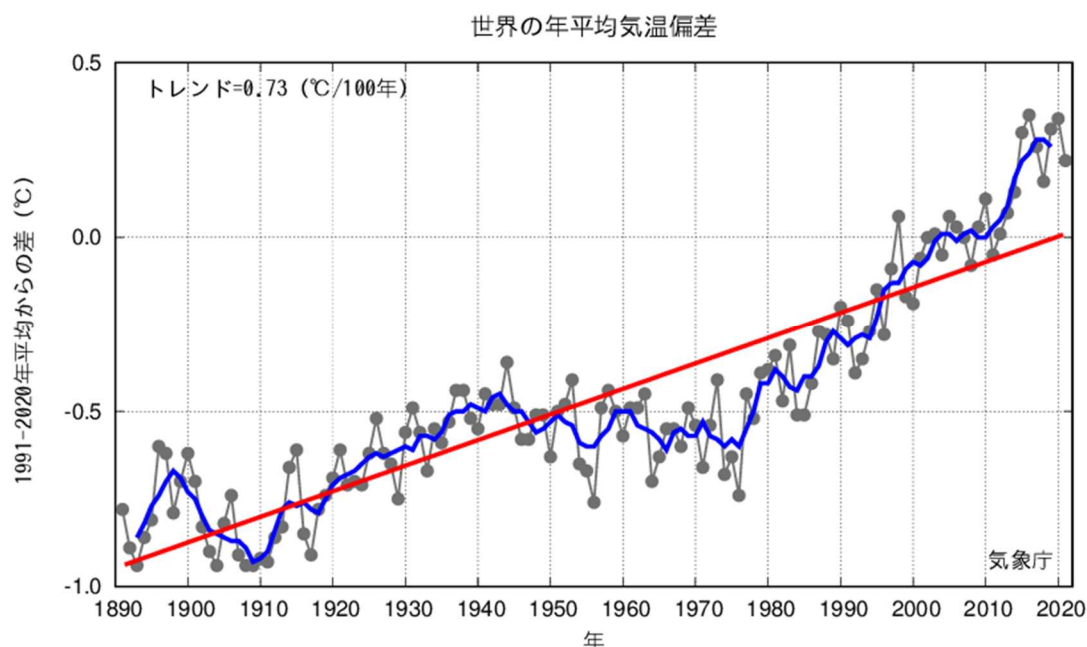


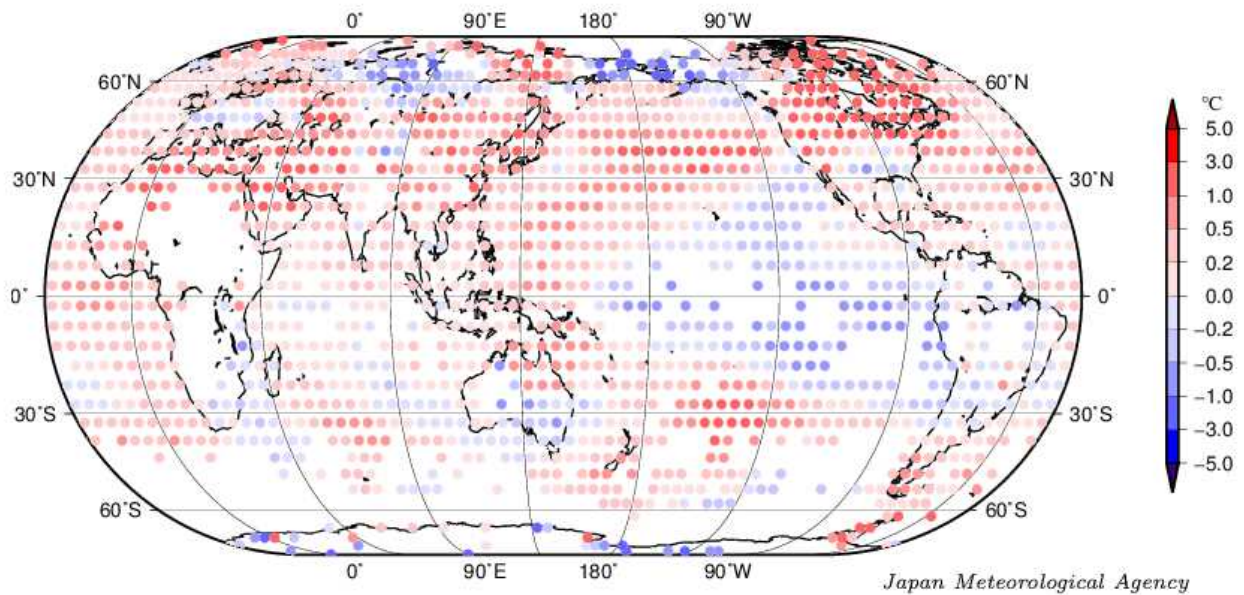
図1 世界の年平均気温偏差の経年変化（1891～2021年、速報）

黒線は各年の基準値からの偏差、青線は偏差の5年移動平均値、赤線は長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）を示す。基準値は1991～2020年の30年平均値。

¹ 世界の平均気温偏差の算出方法はホームページに掲載している。https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/clc_wld.html

² 世界の平均気温の偏差は平均気温から基準値を差し引いた値から算出している。気象庁では、本年5月にこれまでの1981～2010年の30年平均値から1991～2020年の30年平均値に基準値を変更した。

年平均気温偏差 2021 年



図中の丸印は、 $5^{\circ} \times 5^{\circ}$ 格子で平均した 1991-2020 年からの偏差を示す。

図 2 2021 年の年平均気温偏差の分布図（速報）

各観測点の 2021 年の年平均気温偏差（速報値）を緯度、経度 5 度の領域ごとに平均した値で示す。

参考：世界の年平均気温の順位（上位 10 位まで、速報）

世界		
順位	年	気温偏差 (°C)
1	2016	+0.35
2	2020	+0.34
3	2019	+0.31
4	2015	+0.30
5	2017	+0.26
6	2021	+0.22
7	2018	+0.16
8	2014	+0.13
9	2010	+0.11
10	2013	+0.07

本資料は、2021 年 1～11 月までの観測データをもとに、速報としてまとめたものです。世界の年平均気温の確定値は、2022 年 2 月初めにホームページ（下記 URL）で発表します。

また、同ページにて年別・季節別・月別の世界及び日本の平均気温を随時更新・掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/index.html>

